

「DV被害って身近で起きている？」

市内には、DVによる被害を受けながらその相手と一緒に住んでいる人はどれくらいいるのでしょうか。そして、その状況を周囲の誰かが気づけているのでしょうか。

市のDV相談担当課へ聞いてみると、平成28年度のDV相談件数は335件であり、その多くの相談は女性からであるとのことでした。この件数はあくまでも、相談することができた人の件数であり、潜在的には、さらに多くの方がDV被害を受け、誰にも相談できず苦しんでいるかもしれません。

これほど多くの相談があるにも関わらず、私は一度も、見たり、聞いたりしたことはありません。もし、身近で大きな物音や「助けて！」というような叫び声を聞いたらどうすればいいのでしょうか。「110番しようか、でも、後々通報した人に何か被害があるのではないか。だとしたら、見てみないふりをしようか」、「被害者から相談を受けたらどう返答するのか、聴くことしかできないだろう」などと考えるだけでも迷ってしまいます。しかしながら、暴力はいかなる理由があっても許されないという姿勢に立ち返り、私が少し勇気をもって通報することや相談機関への相談を促すことで、当事者とその家族を守ることに繋がることと思います。

この記事をご覧になられた方で、DVにより苦しんでいる方がいるならば、一人で悩まず、公的機関のDV相談担当へご相談することで気持ちの整理や解決のヒントが見つかるはずです。

誰もがパートナーを思いやり尊重することから始めてみませんか。それが、その先の大きな男女平等社会の実現に繋がることと思います。

※このコラムは、男女平等推進事業企画・運営協力員が執筆しています。

(次回は2月号に掲載します。)

